

石丸一男¹：仙台湾に漂着した白樺浮子Ichio ISHIMARU¹：Floats made of White Birch drifted on Sendai Bay

仙台湾を囲む砂浜には数多くの漂着物が見られる。その中でも、中国や韓国、ロシアからのものと分かるペットボトルや浮子などが目立つ。オレンジ浮子、カエル浮子、豆浮子などは頻繁に漂着している。また、ハングル文字で「斗산화 수소」と過酸化水素の表示のある青色や白色ポリタンクも大量に漂着している。

これらの漂着物については、筆者が顧問をしていた明成高校科学部の研究成果としてまとめ公表してきた(石丸・明成高校科学部 2011; 石丸 2016)。また、数多くの外国製品や、イルカ・オットセイ・アカウミガメなどの漂着遺体にも遭遇し、関係機関に報告してきた。

ここでは、仙台湾の各所の海岸(北から蒲生海岸、深沼海岸、北釜海岸、吉田浜)で発見した白樺浮子について紹介する。白樺浮子については最近では製作・使用地域はロシアや北朝鮮との推測がなされており(石井 2013)、付随するスチレンボールにはハングル文字も記入されているという(林 2015)。太平洋岸にも多く漂着している事に、海流の大きな働きがかかわっていると考えられている(岡本 2016)。

漂着状況 図1のように、ゴミの中に混ざって漂着している。白樺の木の皮がめくれて丸まったものと思ってしまう。巻き数は2巻のものから、9巻もあるものまで発見している。長さは約6 cmから15 cm、直径は約2 cmから5.5 cmである。内部にエボシガイやムラサキガイなどが付着しているものもあり、流木に付着し漂流する特徴と同様と考えている。

図2の仙台湾の北釜海岸のものは、直線の切れ跡があったり、角が丸く加工されているので、明らかに人工物と分かる。また、同様に青森県の砂森海岸のものも人工物である。仙台湾でこれまで漂着しているものは、ロープにつながれておらず、単一のものとなっているのが特徴である。

考察 ロシアや朝鮮半島で使われているものが、太平洋に流れ着いているとすれば、東北地方の日本海側や太平洋側にも漂着していて不思議ではないという考えから、合宿を行い東北各地の調査を行った。図2に発見した場所を地図に示した。

2007年は岩手県宮古市から釜石市周辺の三陸海岸、2010年は青森県下北半島、2011年は秋田県・山形県の県境から酒田まで調査を行った。2007年の大槌町における調査で、図2に示したような、一つのロールの中を、白色のビニールひもが通っているものを発見した。明らかに人工物で、海洋を漂う中で、多くは外れたものと考えている。発見場所は多くはないが、東北地方の日本海側、太平洋側に漂着している事が分かった。

これらのことから、日本海で散乱した白樺浮子は、リマン海流、北鮮海流によって、南下しながら、対馬暖流に巻き込まれ、日本海沿岸に沿って北上し、津軽海峡付近で津軽暖流によって海峡をぬけ南下し、岩手県、宮城県の太平洋側にもたらされたものと考えている。太平洋岸にも多く漂着している事に、海流の大きな働きがかかわっていると考えている。



図1 宮城県巨理町吉田浜での漂着の様子

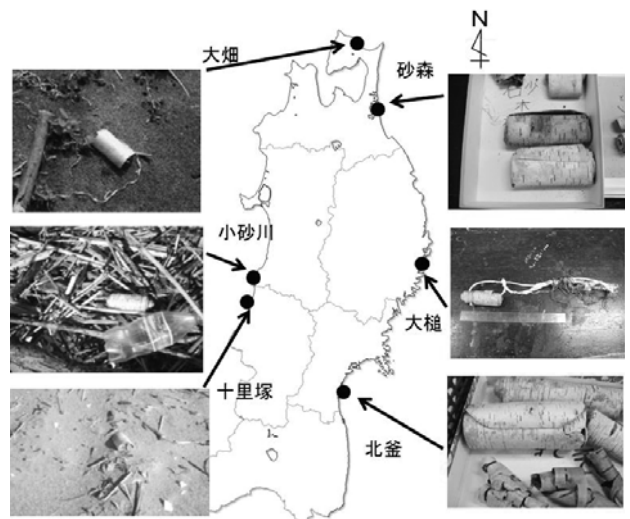


図2 東北地方の海岸における白樺浮子漂着地点

謝辞：筆者が勤務していた高校の科学部の生徒達は、合宿調査に参加し、毎年、県内の理科研究発表会において成果を発表してきた。また、宮城県の高校地学部の顧問の先生方から貴重な意見をいただいたり、励ましの言葉をいただいた。以上の方々に深く感謝申し上げたい。

引用文献

- 林 重雄. 2015. 福井県美浜町に白樺浮きの漂着. 漂着物学会誌 13 : 49-50.
石井 忠. 2013. ビーチコーミングをはじめよう. 132pp, 木星社, 福岡.
石丸一男. 2016. 宮城の海岸漂着物の調査から. 宮城県高等学校理科研究会地学部会誌 53 : 11-15.
石丸一男・明成高校科学部. 2011. 宮城の海岸漂着物. 理科教室 2011年1月号 : 68-71. 日本標準.
岡本泰典. 2016. 広島県福山市宇治島に漂着した白樺製浮木. 漂着物学会誌 14 : 31-32.

(Received July 24, 2018; accepted Oct. 15, 2018)

¹ 〒981-3222 宮城県仙台市泉区住吉台東1-6-4

¹ 1-6-4 Sumiyoshidai-higashi, Izumi-ku, Sendai City, Miyagi 981-3222